

# ねいの里 ホオホオニュース



## ラムネのランプでガチャガチャ捕り



木村 美智子

猛暑日が続く、こんなに暑くては秋の虫も鳴かないだろうと思っていましたが、立秋を過ぎるころになると、草むらから虫の鳴く声が聞こえるようになりました。

そんな中、8月22日ねいの里の「星座とクツワムシを愛でる」に参加しました。館内で山下さんから夏の星座について、続いて湯浅館長さんよりクツワムシについての説明がありました。昔は小矢部市の山中や高岡市の二上山などで普通に見ることができたが、生息地がクズの群落に限られるなど環境破壊にとても弱く、また体が大きく動きが鈍いことなどから、今では絶滅が危惧されているとのこと。

ねいの里では三年前からビオトープ作りの一環として県内産クツワムシの保護増殖事業に取り組んでいる。クツワムシが繁殖できるようにクズを植えたりして環境を整え、毎年卵から飼育されたクツワムシの幼生を園内に放し、天敵のカマキリ退治もしたそうです。

館内で説明を受けていると、早くも玄関先でガチャガチャガチャと大きな声。早速、外へ出てクツワムシを探しました。虫が驚かないように、懐中電灯に赤いセロファンをまいて探します。あっちからもこっちからも大きな声がガチャガチャガチャと聞えてきますが、なかなか姿を見せてくれません。ようやく一匹つかまり、みんなで観察。キリギリスの仲間にしてはとて大きく足も長くて堂々としている。

クツワムシについて私には思い出があります。私にとってクツワムシは「ガチャガチャ」です。5歳の時、兄達5~6人と夜、裏の殿山へガチャガチャを捕りにいった光景を今もはっきりと覚えています。大きな杉の木の林があって、周りに下草が多く生えていて、そこをかき分けるように杉の木の近くまでいくと、とても大きなガチャガチャという声。その声を頼りに葉を裏返すとガチャガチャがいたのです。とは言っても5歳の記憶。懐中電灯なんてなかったし、虫籠もどうだったのかさっぱり覚えていません。その時中学生だった兄に尋ねました。兄は遠い昔のことを懐かしそうに話してくれました。

灯りはラムネの瓶に灯油を入れたものをランプ代わりに使った。虫籠なんて便利なものはなかったから竹などで自分で作るか、あるいは袋を持って行った。捕って帰ったガチャガチャは、庭に放したり、手製の籠で茄子や胡瓜を与えて飼った。夜、ガチャガチャとうるさいくらいだったが、友達と競争なので何度も行った。うす緑色とうす茶色の2種類がいて、うす茶色の方が希少価値があった。

今から60年前の古き良き時代の話です。

空を見上げると、頭の真上にこと座のベガが輝いています。月が明るく、他の星が見えにくくて残念でした。

そろそろ観察会も終了に近づいてきましたが、ガチャガチャ達は夜を徹して鳴き続けることでしょう。



クツワムシの成虫  
茶色と緑2種類  
がいます。



クツワムシの幼生を  
園内に放す木村さん

## 里の山つこに

私のジュニアナチュラリスト活動

小学5年 中野舞奈



私はお花や虫が好きでジュニアナチュラリストになりました。野鳥もけっこう好きで、一度「カケス」の羽をひろい「きれいだなー」と思って持ち帰りたくなり、羽を虫とりあみに入れていて、しばらくしてから、なくなっていることに気づきました。大きなミスをして残念なおもいをしたときがありました。

また、今年のあいちょう週間の5月16日には、ふるどう池のどんぐり橋をわたっているとき、池にへビがおよいでいました。それを見て「めずらし!」とか「すごい!」などと、みんなと見ていました。

私はゲームに出てくる「オオスナバチ」、「エリクシルテントウ」や「アバレボタル」などほんとうにいるのかと思う虫や、お花では「アガパンサス」「ウォーターマッシュルーム」などのありそうで、なきような花や虫も大好きです。

これからも、なぞがあってふしぎな形などしている虫や花などにきょうみをもって、楽しくかつどうしたいと思います。

## 活動をふりかえり

### 「星座とクツワムシを愛でる」8月16日

展示館で講師の山下さんから夏の星座、館長さんからクツワムシはじめ秋の虫についてお話を聞いたあと外へ、赤いセロファンを張った懐中電灯を持って、「ガチャガチャ」と鳴き声のする草むらにそっと近づきました。食草の葛の葉っぱの上に緑色のがいました。しばらく観察しているとあちこちで「ガチャガチャ」と。

北限の県内では4ヶ所では確認されていない秋の虫「クツワムシ」が、ここねいの里で3年前からビオトープ作りの一環として生息地の復元に成功され、今年で3回目の観察会です。清少納言は枕草子で、箏篋（ひちりき）の音色をクツワムシの鳴き声のようで嫌だといって例えています。万葉の昔から親しまれた虫の声や姿を見れるなんて、さらに観察会が終わる頃には雲間から、美しい十三夜の月、夏の大三角形もあらわれ、太古と変わらぬ自然がいっぱいのねいの里に感動し、この素晴らしい環境の保全、継承を願ってあとにしました。注：箏篋（ひちりき）雅楽等に用いられる縦笛

記：中林 幽香子

### 「炭焼き準備・炭材作り」9月4日

今年11月に行う炭焼きの準備を手伝って頂きました。猛暑の中、塾の会会員と地元企業の若者6名、ほかねいの里職員の総勢19名で、炭材となるコナラの伐採・運搬・丸太割りの作業を行いました。炭窯からの炭出し作業もあわせて行いました。特に若い皆さんは初めての体験でもあり、積極的に御協力頂き作業も順調に進みました。今回は6本のコナラを伐採し、11月の炭焼きの炭材とします。炭焼き時には皆さんも気軽に顔を出してください。お待ちしております。

記：長谷川 覚



毎月第1土曜日が活動日です。

お気軽にねいの里へお越しください！ (都合のよい時間だけの部分参加も歓迎です。) 昼食は各自ご持参ください、炭焼き小屋の囲炉裏をかこんでわいわい楽しく食べましょう。

10月24日(日)(ねいの里・日鳥連と共催)	11月6日(土)
○ 午前9時30分 ~ 13時 ・COP10 共催事業生物多様性の推進 「能登のトキ今昔・テナガエビの保護増殖」 集合場所：いこいの村 磯波風	○ 午前10時 ~ 12時 ・里山整備 「園内の整備(間伐・ビオトープ作り等)」
参加者/定員なし	参加者/定員なし

参加者希望者は、ねいの里までお申し込み下さい。

平成22年度会費未納の方は会費の入金をお願いします。また新入会員も大歓迎です。

### ねいの里行事予定

10月11日(祝)	1月4日~6日
○ 午前9時 ~ 13時 ・キノコ狩りとキノコ汁を愛でる きのこ汁希望者は200円/人が必要です。	○ 午前9時 ~ 17時 ・春の七草を愛でる(七草の頒布) 頒布価格は200円/セットです。
定員 キノコ汁は300食限定(事前申し込み)	頒布数 200セット(事前申し込み)

参加者希望者は、ねいの里までお申し込み下さい。

### 関連行事

10月24日(日) 14時 ~ 16時 特別講演と意見交換会  
「ロシアの素晴らしい自然とそこにすむ鳥」  
講師 ロシア科学アカデミー極東支部研究員 ヴァリチュク オリガ 氏  
場所：いこいの村 磯波風 (COP10 共催事業生物多様性の推進 行事終了後実施)

#### ■ 特別展示

10月 1日 ~ 10月22日 ねいの里 キノコ展  
11月21日 ~ 12月12日 いちよん会自然写真展  
12月17日 ~ 3月31日 ネイチャーフォト展 自然塾の会写真展

#### ■ お願い ■

○ 会員の駐車場利用について  
会員の方は、「ねいの里」行事への参加や施設の利用を前提に、ナチュラルリスト駐車場を利用する事が出来ます。

発行 生き物ふれあい自然塾 塾長 湯浅純孝  
〒939-2632 富山県富山市婦中町吉住1-1 自然博物館ねいの里内  
Tel 076-469-5252 / メールアドレス [shizen@toyamap.or.jp](mailto:shizen@toyamap.or.jp)  
ホームページ <http://www.toyamap.or.jp/shizen/>

# ふくろう通信

第19号  
2010年10月1日  
生き物ふれあい自然塾

今日のふくろう先生は



久米 有子さん  
(財)日本鳥類保護連盟 専門委員



## 身近な自然でワクワク・ドキドキ

今年2010年は、国連が定めた「国際生物多様性年」で、富山県内でも関連行事や講演があらこちらで開催されています。では、「生物多様性」って、何なのでしょう？ 地球上には500万種以上もの生き物が存在すると言われており、これら多種多様な生き物のつながりを「生物多様性」と呼びます。私たち人間は、生物多様性の中で、その恵みの恩恵を受けて生きています。

先日開催されたある講演の中で、会場から質問が出ました。「生物多様性を守っていくために、何をすればよいのですか？」 パネリストの一人が答えました。「自然の中へ出かけて、自然を知り、自分なりの自然観を持ってください。」

さて、自然のなかへ出かけると言っても、どこへ行きましょうか？ 私は、日常生活の中でも、生き物の存在を感じ自然を知ることではできると思うのです。

たとえば、「皆さんの家の周りにはどんな鳥がいますか？」と質問すると、「カラスしかいない」と返答されることが多いです。実際は様々な鳥が暮らしています。かつては私も、カラスしかいないと答える一人でした。ある時、家の前で、1枚の羽根を拾いました。長さは10cm 足らず、色は全体に黒っぽいグレーで、先端には縁取りのように明るい茶色の部分がありました。先端部の茶色を手がかりに羽根図鑑で調べたところ、キジバトの羽根とわかりました。明るい茶色の部分は、キジバトを観察したときに翼の模様として眺めていましたが、このとき1枚1枚の羽根が集合してキジバト全体の模様となっていることにハッと気がつきました。たった1枚の羽根なのですが、1羽の鳥の存在を十分に感じさせてくれました。1枚の羽根から、大きさ、形、色などを手がかりに、どの鳥の羽根なのか推理するのは名探偵の気分が味わえて楽しいですし、また鳥の種類がわかったときは、とても嬉しくなります。



なんとも可愛いキジバトさん



キジバトの羽根の一部

ささやかな私の経験をご紹介してみましたが、知ることで自然を見るための窓が広がったと感じています。自然を知る方法は多々あると思いますが、自分のセンサーを磨いて感度を上げていけば、生き物の存在とその暮らしが見えてきて、ワクワクドキドキ毎日を楽しんで過ごすのではないかと思います。

#### 豆知識



クズが花盛りだ。クズは繁殖力が旺盛なこともあって、空き地や傾斜地等、クズの花をいたるところで見ることができる。クズは萬葉の時代から人々に親しまれてきた植物で、山上憶良の詠んだ秋の七草の歌「萩の花尾花葛花瞿麦の花 女郎花また藤袴朝顔の花」に登場することで知られている。

(注) 瞿麦：ナデシコ、女郎花：オミナエシ、朝顔の花：キキョウ 記：長谷川